



新年の挨拶

校長 栗林 正見

2018年(平成30年)が始まりました。今年もよろしくお願いたします。

今年の干支は「戌(いぬ)」ですが、「戌年」は、次に命を繋ぐとても縁起のいい年回りであり、「戌」には「新しい命を守る」という意味もあるそうです。子供たちにとって、今年並びに今学期も安心・安全な学校生活を送ることができたらと考えています。

3学期は、まとめの学期であり、高等部3年生・中学部3年生・小学部6年生にとっては卒業の時期となりました。特に、高等部3年生は、いよいよ学校を巣立ち社会に出ることになります。作家西館牧子さんのエッセイ集に、「二月の雪、三月の風、四月の雨が輝く五月をつくる」というものがあります。これは、「二月に雪が降り、三月は強い風が吹き荒れ、四月はにわか雨にたたかれることが多い月です。いずれもありがたいとばかりは言い切れない自然現象です。でも、雪や風雨や、そういうイヤなことが、輝く五月をつくってくれる。逆に考えると、イヤなことが全然ない人間は、たいして輝かない五月しかつけないよね。」といったことを表していると、あとがきに書かれていました。子供たちにおいても、保護者の方にとっても、これまで雪や風雨のようにイヤなことや苦勞したことが、多々あったと思います。しかし、それはこれからの(これから)素敵な人生のためにあるものだと私は思っています。初春を迎え、そのようなことを深く感じました。



給食ありがとうの会：1月25日(木)



毎日おいしい給食を作ってくれる栄養士さんと調理師さんへ普段の感謝を伝える会を行いました。給食で好きなメニューを書いた児童生徒56人全員のカードを冊子にして贈りました。1月22日(月)から26日(金)は給食週間でもあり、『世界の料理』を通して、各国の食文化に触れながら、食に携わる人や食材など様々なものに感謝していただきました。



寄宿舎「宝探し」：1月24日(水)



明真会(寄宿舎児童生徒会)ミニ行事で「宝探し」を行いました。なぞなぞや暗号問題を解読しながら、寄宿舎内を回りました。最後には、黄金の宝箱が開き、景品のお宝を手にすることができました。謎解きに四苦八苦しながらも楽しく笑顔で活動していました。